

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■農事組合法人の経営支援 農業経営者サポート事業

アグリチャレンジ支援センターでは、法人等の経営安定に向け、農業経営者サポート事業を実施している。今年度の支援対象として、農業普及課から（農）西黒野を推薦しており、8月31日に株式会社ビッグアームから講師の派遣を受け、経営診断を行った。

当日は活発に質疑応答が行われ、人件費の見直しなどが提案された。今回の診断結果はレポートとしてまとめられ、今後も農業普及課では、法人の経営安定を支援していく。



【経営診断の様子】

■かき・いちご 農業DX化に向けて オンライン現地巡回

揖斐管内では、かきといちごで環境モニタリング装置を活用し、農業DX化事業に取り組んでいる。農業普及課では、データ収集と分析により栽培改善等に繋げていくための支援を実施している。

かきでは7月28日、いちごでは9月10日に農業経営課やメーカーと共にかきといちごのほ場にモニタリング装置を設置した。

かきは9月13日、いちごは9月22日に設置状況やデータの活用に向けて、現地巡回を予定していたが、コロナ禍のため、急遽オンラインでの現地巡回を行った。現地状況や栽培概要、今後の栽培方針等の質疑応答があり、活発な意見交換が行われた。

今後も農業普及課では、測定したデータの活用し、適正な栽培ができるよう支援を行っていく。



【オンライン巡回の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■かき・大野町かき振興会 西村早生出荷目揃え会の開催

9月4日に大野町かき振興会の「西村早生」出荷者を対象とした出荷目揃え会が開催された。コロナウイルス感染対策のため2会場に分かれ出荷予定会員が、出荷規格と家庭選果の基準等を確認した。

振興会技術部会員がサンプルを用いて、出荷規格と出荷基準について丁寧に説明し、9月6日の初出荷に向けて意識の統一を図った。

8月23日には西村早生の渋果率の調査を実施しており、今年は大玉傾向で、渋果の割合が多く出荷されることが予想された。

農業普及課では、巡回等を通して生育状況調査、病害虫対策等品質向上に向けた支援を実施した。



【目揃え会の様子】

■いちご いちごシーズン開始に向けて

いちごの適期定植に向けて、定植時期を支援するための判断として、農業普及課ではいちご花芽検鏡を9月9日～22日に実施した。

今年度は、曇天が続いたため、平年より花芽分化が早くなると予想されたが、平年と同様の9月18日となった。

また、9月16日にJ Aいび川揖斐営農経済センターにおいて、花芽検鏡結果及び定植前後の管理についての研修会を実施し、適期定植の情報提供を行い、栽培支援を行った。

これからいちご栽培が本格化するため、農業普及課では、産地の発展に向けた支援を継続する。



【花芽検鏡の様子】

■茶 荒茶（秋冬茶）共販委員会の開催

9月22日にJ A全農岐阜美濃茶流通センターにて、荒茶（秋冬茶）共販委員会が行われた。農業普及課からは、一番茶・二番茶の振り返りと秋冬茶の生育状況について情報提供を行った。

近年の茶価の低迷により、販売金額は下り坂であるなか関係者一丸となってさらなる産地形成を図れるよう、意識の統一が図られた。

秋冬茶の摘採は、池田町では10月4日、揖斐川町では10月5日より始まり、10月8日と10月12日に共販会が開催される予定である。



【秋冬茶共販委員会の様子】

中山間地域を守り育てる対策

■金ごま バインダーを利用した刈り取りの実演

揖斐川町内各地で栽培している金ごまの刈り取り時期を迎え、9月7日に現地研修として、バインダーを利用した刈り取りの実演を行った。

現在、刈り取りは手刈りのみで行っており、刈り取り作業が生産規模を増やす障害の一つである。そのため、J Aいび川からバインダーを貸し出し、利用することで省力化を試みた。5aのほ場で、2種のバインダーで刈り取りを試し、操作性等を検討した。ほ場条件（畝の高さ、土の硬さ）で、すべてのほ場で利用できるわけではないが個別に利用を検討することとなった。

農業普及課では、引き続き、揖斐地域の特産作物の一つとして生産振興を支援していく。



【実演の様子】